

氏名	桜井 洋
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙 第 727 号
学位授与の日付	昭和 50 年 12 月 31 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	顎口腔領域嚢胞の剥離細胞学的研究
論文審査委員	教授 妹尾左知丸 教授 小川勝士 教授 小倉義郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

著者は岡山大学医学部口腔外科学教室において、摘出、開窓または生検を行った嚢胞 102 例と鑑別を要する疾患としてエナメル上皮腫 15 例について剥離細胞学的検索を加えた。

- 1) 剥離細胞数は症例によりかなりの差がみられた。
- 2) 嚢胞の剥離細胞は個々の細胞+数個集団の形のものが多かったのに対し、エナメル上皮腫では加えて大集団を伴っていた。
- 3) 細胞質：染色性は正中口蓋嚢胞，皮様嚢胞，球状上顎嚢胞は良く染り，術後性頬部嚢胞，濾胞性歯嚢胞，歯根嚢胞，エナメル上皮腫は中等度，唾液腺貯溜嚢胞は不良なものが多かった。染色別には皮様嚢胞は殆んどの細胞が黄色に染色されたが，他の症例は青色が圧倒的に多かった。また皮様嚢胞に浅層の細胞が多かったのに対し，他症例では中間層細胞が多かった。外形は多角形，円柱状，楕円形など各嚢胞例について特有の形が認められ，由来上皮細胞の検索がある程度可能であることが判かった。
- 4) 核：細胞質のように各例の間の相違は認められなかったが，クロマチン像，過染性，核膜，核形，核数，核の大小不同性などの異常を呈したものがあつた。
- 5) 核小体：数，染色性，外形の異常を示したものもあつたが，悪性腫瘍と比較するとその程度は少なかった。
- 6) 細胞質の長径，短径，面積は正常頬粘膜と比較して，嚢胞，エナメル上皮腫ともに有意の差が認められたが，核はすべてのものに有意差があるとは云えなかった。細胞質核比は核優勢を示した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は口腔外科領域における剥離細胞学的診断法に関し，102 例の嚢胞症例について研究したものであるが，従来充分確立されていなかった細胞質の性状，核内構造，核小

体核細胞質比等について詳しく検索し、特に嚢胞と鑑別を要するエナメル上皮腫 15 例に関する詳しい検索を通じ、その適用について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。